

東北福祉大学 感性福祉研究所

感研プロジェクト 3.11

G3-3「寺院とそれに関係する人々の地域社会における役割―特に災害時における役割―」

主催 PFA研修会、シンポジウム

I. 開催概要・目的

甚大な被害をもたらした東日本大震災より約 9 年が経過しようとしているが、その間にも全国的に数多くの自然災害が発生している。最近では、台風 15 号や台風 19 号等、全国各地で水害やそれに伴う土砂崩れ等の被害が生じている。「災害は忘れたころにやってくる」という寺田寅彦の名言があるが、昨今の度重なる自然災害の発生をみると、忘れる前に次の災害が襲い掛かってくるような状況にあるといえる。

一方、度重なる自然災害の発生に伴い、災害時の被災された方への支援やその方法論に関する多くの議論がなされ、特に「こころのケア」の必要性が指摘されてきている。

このような背景から、本研修会、シンポジウムでは、全国各地で頻発する自然災害への対応、特に被災された方へ支援のあり方を考えるにあたり、発災直後の応急的な心理的支援である「Psychological First Aid(サイコロジカルファーストエイド) : PFA」について学ぶことを目的としている。

今回の研修会・シンポジウムは、2 日間での開催を予定しており、1 日目には災害後の心理支援である PFA 研修を行う。そのうえで、2 日目には、研修会の内容を踏まえ、参加者のこれまでの被災地支援や平時からの地域支援の経験をもとに、被災地/被災者支援の実践者及び研究者とのディスカッションを行うワークショップ形式のシンポジウムを行う。

これら 2 日間の研修会とシンポジウムを通じて、今一度、改めて被災された方への支援のあり方について考えていく。

II. 研修会、シンポジウム プログラム

1 月 22 日(水) 12 : 30-18 : 00 PFA 研修会
12 : 30 開場
12 : 30-13 : 00 基調報告 渡邊圭(東北福祉大学感性福祉研究所 特任研究員) 「社会福祉からの被災者支援の視座 : Resilience アプローチに焦点をあてて」
13 : 00-18 : 00 PFA(Psychological First Aid)研修 講師 : 大沼麻実(国立精神・神経医療センター 精神保健研究所 研究員)
18 : 00 閉会

1月23日（木）9：00～12：00 被災者支援を考えるワークショップ

9：00 開場

9：00～12：00

グループワーク「これまでの経験を基に被災者支援を再考する」

■ワークショップファシリテーター

- ・大沼麻実（国立精神・神経医療センター 精神保健研究所）
- ・木村尚徳（元曹洞宗山形第一宗務所災害対策支援本部担当）
- ・渡邊 圭（東北福祉大学感性福祉研究所）

■司会・進行

齊藤仙邦（東北福祉大学教育学部）

12：00 閉会

Ⅲ. 研修会、シンポジウム実施報告

1. PFA 研修会の実施（1/22）

2 日間のプログラムの実施にあたり、東北福祉大学感性福祉研究所の渡邊圭特任研究員より、東北福祉大学及び感性福祉研究所にて実施している東日本大震災を対象としたこれまでの調査研究事業及び、本チームも参加し、現在調査研究作業が遂行されている研究事業である「3.11 を契機とする地域の健康福祉システムの再構築—『集中復興期間』後の展開—」についての紹介がなされ、2 日間の研修会、シンポジウム開始にあたっての話題提供として、社会福祉学の立場より、“Resilience アプローチ” に焦点をある形で被災者支援についての基調報告がなされた。

基調報告では、災害対応における対応枠組みとしての災害サイクルモデルの紹介とその変遷に沿って展開される公私による支援の展開についての説明がなされ、社会福祉、ソーシャルワークの立場からの被災者支援を考えるにあたり、「災害」をどのように捉えるかの思考方法の転換（出来事からプロセスへ）、ライフコース（生の過程）の視点の導入、理論的枠組みとしての Resilience アプローチ導入の必要性について報告がなされた。

【齊藤仙邦先生による趣旨説明】



【渡邊圭研究員による基調報告】



基調報告の後、国立精神・神経医療センター精神保健研究所の大沼麻実先生を講師として、PFA(Psychological First Aid)研修会が実施された。研修会では、大沼先生による PFA に関する講義と参加者が PFA の視点を考えるためのグループワークやロールプレイが行われた。

ロールプレイでは、被災者支援の視点を考えるため、発災直後の避難所における対応について参加者同士が、支援者、被災者のそれぞれの役割を担い、どのような対応を行うかについて議論が行われた。

Psychological First Aid
心理的応急処置
(サイコロジカル・ファーストエイド：PFA)



危機的な出来事に見舞われた被災者を支援する

2020年1月22日
福島市

1

研修の流れ

- 1、イントロダクション
- 2、PFAの概論
ーPFAとは何か。誰に、いつ、どこで行うか。
- 3、PFA の活動原則
ーケースシナリオとロールプレイ
- 4、セルフケアと支援者へのケア

3

【大沼先生による PFA 概論の講義】



【開始にあたってのアイスブレイク】



【避難所を想定したロールプレイ】

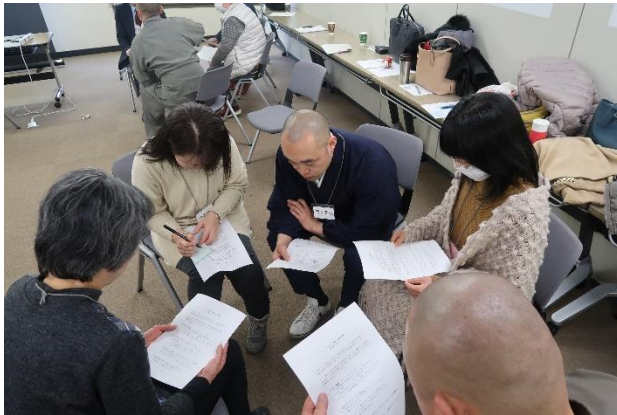


【ロールプレイ後の全体ディスカッション】



研修会では、ロールプレイの他にも、PFA の活動原則について学ぶため、ケースシナリオに基づき、グループワークとグループディスカッションが行われた。個別のグループワークについては、そこで出された議論が全体に共有され参加者全体での議論が行われている。

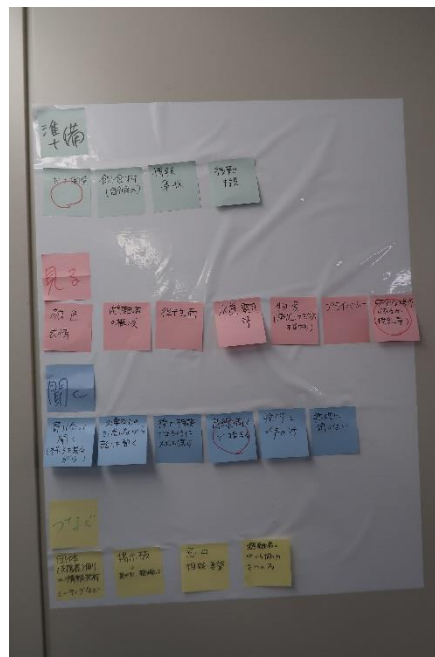
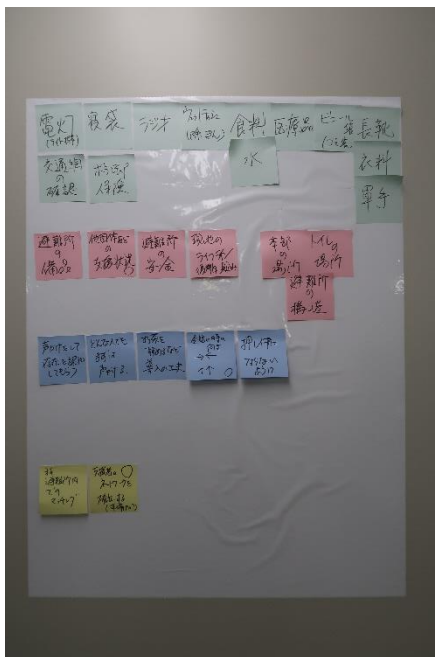
【小グループによるディスカッション】



【ディスカッションの全体共有】



【グループワークにて出された意見】

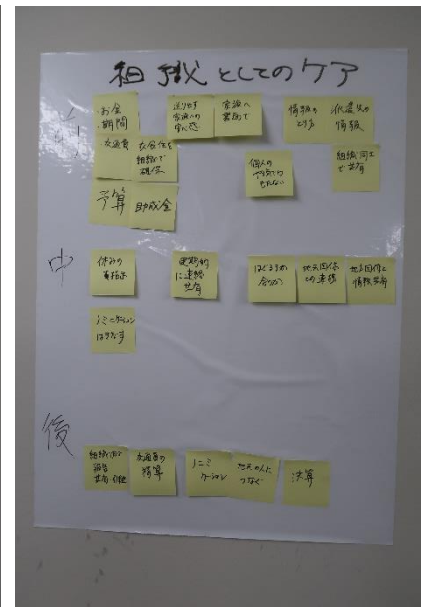
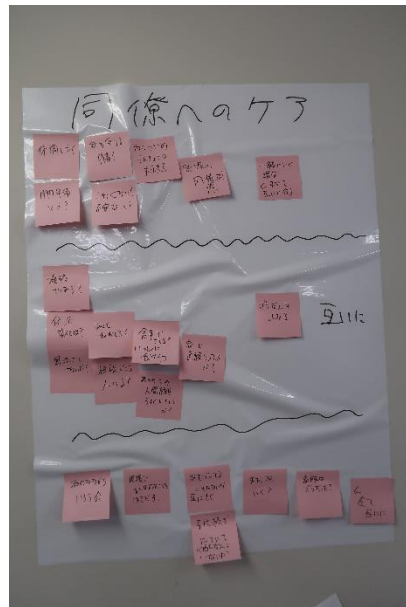
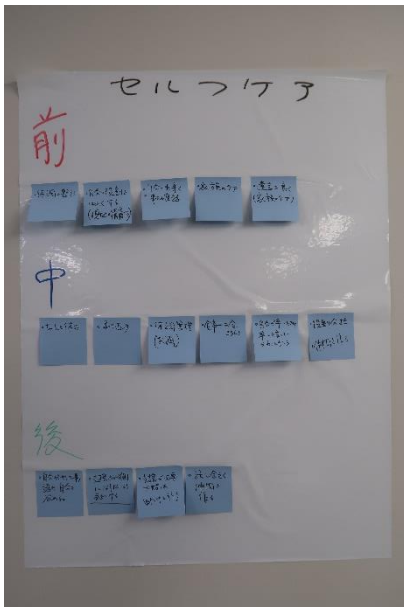


PFA 研修会では、被災者支援だけではなく、開始された支援をいつ終了するのかのタイミングの内容や、支援者自身のケアの必要性、支援者同士の支援の必要性についての講義も行われた。これらの内容については、自分自身と同僚のケアをテーマとしたグループワークが実施されている。グループワークでは、被災地支援を実施するにあたって、支援者個人、同僚への対応、支援組織、という各立場から、支援前、支援中、支援後の3つのフェーズにおいてどのような点に注意すべきかについてグループ及び全体で議論がなされた。

【3つの立場でのグループワークと全体での議論】

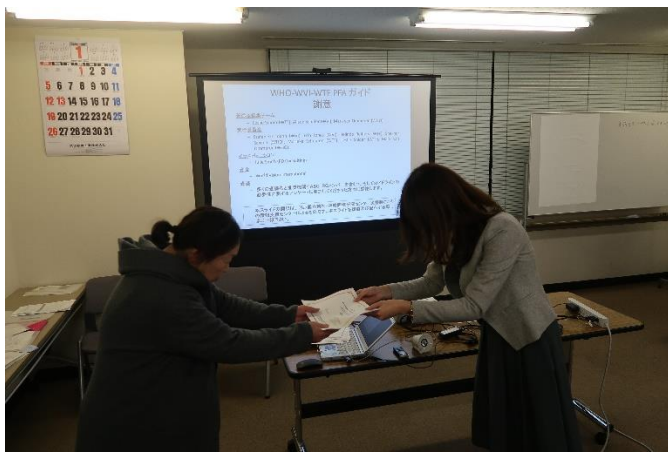


【各グループで出された意見】



参加者によるロールプレイ、グループに分かれてのグループディスカッションと全体での議論が行われた。グループワークや全体でのディスカッションでは、参加者それぞれが、東日本大震災による被災地、被災者支援やこれまでの阪神淡路大震災や新潟中越地震等の支援に携わっている経験もあったことから、自身の経験を基にした発言が多くみられた。また、今回、福島県にて開催したことにより、福島県内での放射能災害による避難者支援に携わる参加者より、福島県の現状についての話が出されるなど、現場の実態に即した形でのロールプレイやグループディスカッションが展開されている。

最後に参加者へ大沼先生より修了証が渡され、1日目の研修会は終了した。



2. ワークショップ型シンポジウムの開催

2日目は、当初、講師等による「これまでの経験を基に被災者支援を再考する」をテーマとしたパネルディスカッションを予定していた。しかし、1日目のグループワーク及び全体ディスカッションへ参加者が積極的に発言、議論をしていることから、急遽、災害対応における各フェーズに基づき3つのテーマ①「発災への備えを考える」、②「初期対応を考える」、③「中長期における支援を考える」一を設定し、テーマごとに講師等がファシリテートを行うグループディスカッション形式のシンポジウムに変更した。

【グループワーク概要・テーマ】

プログラム(1月23日)

9:00~12:00

グループワーク「これまでの経験を基に被災者支援を考える」

- * 講師、参加者でのテーマに基づいたグループワークを実施します。
- * テーマに沿って、30分のグループワークを3回実施予定です。
- * 30分の“対話”が終わりましたら参加者の皆さんはテーブルを移動してください。
- * 特に専門的な知識は必要ありません。

グループワーク テーマ

グループA(木村先生)
…テーマ「発災への備えを考える」

グループB(大沼先生)
…テーマ「初期対応を考える」

グループC(渡邊)
…テーマ「中長期における支援を考える」

グループワークでは、各テーブルのファシリテーターによりテーマに基づき、簡単な話題提供が行われ、参加者同士のテーマに基づいたディスカッションが行われた。1セッション30分のグループワークであったが、議論が白熱し途中の休憩時間にまで参加者の議論が及んだ。また、参加者はテーマ毎にテーブルを移動することで、前のテーブルでのテーマを踏まえる形で次のテーマに基づくグループワークでの議論を展開しているようであった。

【グループワークの様子】



3回のセッションが終了した後、各テーブルで出された内容をファシリテーターが報告し、全体ディスカッションを行った。全体ディスカッションを受け、司会・進行の斉藤仙邦先生より全体総括のコメント、チャイルドラインふくしま、全国曹洞宗青年会災害復興支援室の久間泰弘先生よりまとめのコメントをいただき、2日間にわたるプログラムが終了した。

【斉藤仙邦先生からの総括コメント】

【参加者集合写真】

